

YAMAU REPORT 2010

第53期 事業報告書

平成21年4月1日 ▶ 平成22年3月31日



明日の快適環境を
目指して



株式会社



証券コード：5284

ヤマウフィロソフィー

わが社は、事業活動を通じて社会に貢献することを使命とし、顧客の満足度を高め、会社の発展と社員の幸福を実現する。



代表取締役社長

権藤 勇夫

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

当社第53期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の営業の概況等につきましてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月



■営業のご報告

当連結会計年度におけるわが国の経済は、政府の経済対策効果などにより企業収益は最悪期から脱しつつあるものの、雇用情勢の悪化やデフレ経済の広がりなどにより、全体としては依然として先行き不透明なまま推移いたしました。

当社グループが属するコンクリート製品製造業界におきましては、公共事業が、国の追加経済対策等による一時的な工事発注量の増加により堅調に推移いたしました。が、社会資本の成熟化並びに国、地方自治体の財政悪化による建設投資の縮減傾向が続くなか、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境下、当社は、当連結会計年度より実行しております「中期経営計画（平成21年4月1日～平成24年3月31日）」を着実に達成するため、徹底したコスト削減による収益性の改善に取り組むとともに、受注力強化を図って参りました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は、148億59

百万円（前年同期比15億31百万円の改善）となりました。

利益面につきましては、営業利益7億18百万円（前年同期比8億52百万円の改善）、経常利益7億21百万円（前年同期比8億55百万円の改善）の大幅な改善となりました。なお、当期純利益につきましては、減損損失等の特別損失を計上したことにより、2億86百万円（前年同期比5億40百万円の改善）となりました。

当社が属するコンクリート製品製造業界におきましては、公共事業投資予算の削減や原材料価格の上昇なども懸念されることから、厳しい経営環境が続くことが予想されます。

このような状況にあって当社グループは、「中期経営計画（平成21年4月1日～平成24年3月31日）」の目標必達に向け、引き続き受注拡大、生産性・採算性の向上を推進して参ります。また、顧客のニーズに対応した新商品の開発等による需要の創造等に継続的に取り組み、利益確保に努めて参る所存であります。

■連結財務ハイライト

区 分	平成18年度 第50期	平成19年度 第51期	平成20年度 第52期	平成21年度 第53期
売 上 高 (千円)	13,205,216	13,382,364	13,328,329	14,859,738
経 常 利 益 (△損失) (千円)	370,641	165,480	△ 133,982	721,931
当 期 純 利 益 (△純損失) (千円)	327,571	143,975	△ 254,602	286,385
1株当たり当期純利益 (△純損失)	69円75銭	28円77銭	△ 56円51銭	60円86銭
総 資 産 (千円)	11,079,665	11,022,702	9,949,907	10,545,258
純 資 産 (千円)	1,583,596	1,650,686	1,380,306	1,683,128
1株当たり純資産	212円77銭	229円94銭	169円09銭	230円89銭



■セグメント別営業のご報告

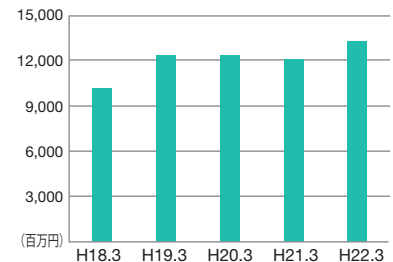
●コンクリート製品製造・販売事業

コンクリート製品製造・販売事業の売上は、土木製品・景観製品・レジンコンクリート製品の販売によるものです。当連結会計年度においては、営業強化による受注確保に努めた結果、売上が堅調に推移し、144億59百万円（前年同期比15億33百万円の改善）となりました。

利益面については、徹底したコスト削減による収益性の改善が奏功し、営業利益7億12百万円（前年同期比8億4百万円の改善）となりました。

土木部門

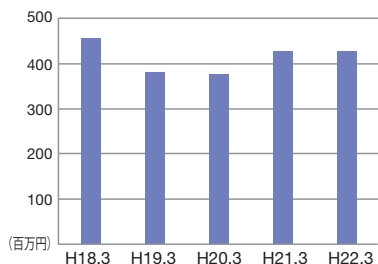
道路、港湾、河川、上下水道、宅地開発、防災など、私たちの周りではさまざまな目的で開発事業が進められておりますが、今日の開発事業は環境への配慮を抜きには考えられなくなって参りました。土木部門では、「開発の基本は自然との共存である」という考えからさらに一歩進んで、「自然の姿を破壊せずに融合を図り、より自然に近い環境を創出する」ことを念頭においたコンセプトをもとに、国土を守り、環境を保全し、人々の快適な暮らしを支える製品を数多く生み出しています。



▲(上段左から)走行路版、プレガード、パワーロック、(下段左から)グリーンロック、スパンザウォール、PGF

レジンコンクリート部門

レジンコンクリートは特殊樹脂をバインダーとして自然石を固化成形した人造石です。セメントコンクリートの3~4倍の機械的強度があり、耐摩耗性、耐薬品性、耐水性などにも優れ、美観とともに強度や耐久性の両面が必要とされる環境条件に最適な材料です。港湾、漁港の車止め、コーナー及び係船柱は塩害対策として利用されています。又、多彩な色



彩表現及び優れた成形性によりアート感覚溢れる景観構成材としても幅広く利用されています。



▲アート平板

◀カーストップ、係船柱

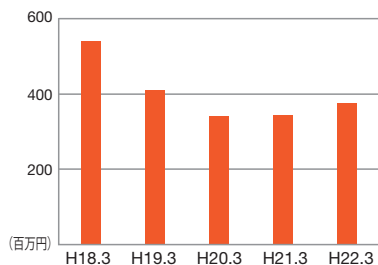


◀fitサークル

景観部門

街や都市の公園、テーマパークやアーバンリゾートは、人々の心の伸びやかさ、感受性の豊かさを育むうえで必要不可欠のものです。緑地の花や樹木、自然の風景は人の心をなごませ潤いを与えます。

多彩な表情を持つヤマウの景観構成材は自然環境に広がりとお興行きを与え、開放感やスケール感を損なうことなく美しい景観を演出します。



▲(上) 植樹ベンチ
(下) ピカコン



▲(上) フットライト
(下) バーゴラ



製品分類（コンクリート製品製造・販売事業）

土木部門

河川製品類	ケスタ、グリーンロック、ネクストーン、ポラボックス、げんじくん、かご舂、のり舂、がんちゃん、のぼるくん、とおりゃん瀬、CCブロック、eベース、テトラックPG
擁壁類	パワーロック、PAN WALL工法、多数アンカー、井桁ブロック
L型擁壁類	NNC、ハイタッチウォール、スーパクリフ、ガードクリフ、ノーマルクリフ、サンクウォール
カルバート類	ボックスカルバート、FreeFitボックス、大型斜角カルバート、アーチカルバート、スパンザウォール、ボックスガレージ、可とうボックス
管渠・暗渠類	ライン側溝、サイドライン側溝、側溝カルバート、NJ境界集水溝、重圧管、横断暗渠
側溝類	ピット側溝、リボン側溝、SF側溝、YCL側溝、トライポット用側溝、シントー側溝

景観部門

舗装材	洗い出し及び擬石による平板・縁石・階段・皿型、歩車道ブロック、植込舂、植樹舂 他
ストリートファニチャー	車止め、外柵、ベンチ、水飲み、プランター、ポール、パーゴラ、モニュメント、LEDを埋め込んだピカコン車止め、ピカコン外柵、LED照明 他

道路製品類	そうげん、プレガードII、PGF、SGF（仮設用防護柵）
水路類	YT水路、三面水路、軽量三面水路
残存型枠・シートライニング	ダクトアルフォーム、ダクトアルライニングパネル、ゆうパネル
機能性コンクリート	ダクトアル、ゼオガード（抗菌コンクリート）
ダム関連製品	監査廊、エレベーターシャフト、高欄
貯留システム及びシントー製品	アクアポンド、防火水槽、耐震性貯水槽、浸透側溝、浸透樹

レジンコンクリート部門

YRG集水蓋（U型用蓋・側溝蓋）、カーストップ、メンテナンス床板（UPC階段）、fitサークル、フリーボーイ、誘導ブロック、係船柱、LEDを埋め込んだピカコン車止め、ピカコンカーストップ、レジン多孔管、分岐部側板、レジンパネル 他

建築製品

後付エレベーターシャフト

●情報機器の販売及び保守事業

情報機器の販売及び保守事業の売上は、主に金融機関向け業務処理支援機器、貨幣処理機及びその周辺機器の販売並びにそれらの保守によるものです。当連結会計年度においては、情報機器の販売及び保守事業の売上高は、2億25百万円（前年同期比17.3%減）となりました。

●コンクリート構造物の点検・調査事業

コンクリート構造物の点検・調査事業の売上は、橋梁、トンネル等コンクリート構造物の点検・調査請負、補修・補強設計業務の請負によるものです。当連結会計年度においては、コンクリート構造物の点検・調査事業の売上高は、1億74百万円（前年同期比52百万円の改善）となりました。

~ New Field's Product ~

ファインユニ
Fine uni

「ファインユニ」
完全自立型 プレキャストコンクリート製
後付エレベーター昇降路

既存の中低層集合住宅や学校などへ
スリムにエレベーターを設置できます!!

**バリアフリー対策
として最適**

身障者の社会参加増大や超高齢社会となった昨今。本システムは既存建物の物理的バリアを解消し、社会的ニーズに的確にお応えします。

**設置期間を
大幅に短縮**

昇降路設置工事は、基礎工事完了後わずか5日間で完成。在来工法に比べ大幅に工期を短縮でき、安全性も高く、居ながら施工も可能です。

**設置場所を選ばず
スリムな形状**

在来工法と比べ面積比で35%もスリム化された形状です。あらゆるケースに対応でき、設置スペースも軽減され、圧迫感もありません。

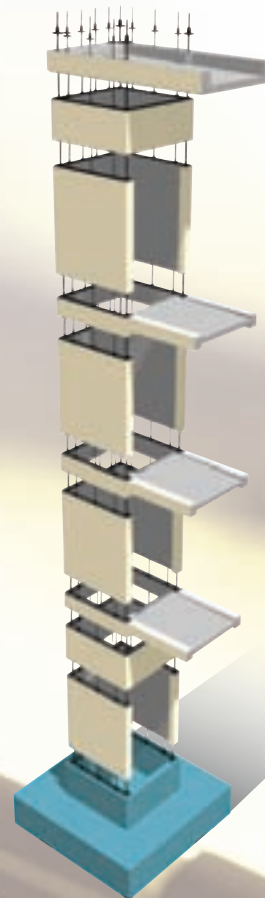
**既存建物に
負担をかけない構造**

本システムは鉛直荷重・水平荷重ともに昇降路自身で負担する完全自立型を採用。既存建物への負担は一切なく、耐震性・耐久性も抜群です。



主な設置場所

- 階段室型共同住宅、片廊下型共同住宅
- 小学校・中学校などの教育施設
- 図書館、体育館、市民センター、公民館などの公共施設
- 駅前広場(デッキ)、駅舎
- 歩道橋 …など





■連結財務諸表（要旨）

●連結貸借対照表（平成22年3月31日現在） （単位：千円）

科 目	金 額
資 産 の 部	
流 動 資 産	7,525,569
固 定 資 産	3,019,689
有形固定資産	2,634,394
無形固定資産	77,498
投資その他の資産	307,796
資 産 合 計	10,545,258
負 債 の 部	
流 動 負 債	7,201,117
固 定 負 債	1,661,012
負 債 合 計	8,862,130
純 資 産 の 部	
株 主 資 本	1,652,654
資本金	800,000
資本剰余金	300,000
利益剰余金	564,424
自己株式	△ 11,769
評 価 ・ 換 算 差 額 等	△ 556
その他有価証券評価差額金	△ 556
少 数 株 主 持 分	31,031
純 資 産 合 計	1,683,128
負 債 純 資 産 合 計	10,545,258

●連結損益計算書（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで） （単位：千円）

科 目	金 額
売上高	14,859,738
売上原価	11,059,328
売上総利益	3,800,410
販売費及び一般管理費	3,081,419
営業利益	718,990
営業外収益	119,792
営業外費用	116,851
経常利益	721,931
特別利益	1,261
特別損失	337,957
税金等調整前当期純利益	385,235
法人税、住民税及び事業税	83,918
法人税等調整額	2,563
少数株主利益	12,368
当期純利益	286,385

●連結キャッシュ・フロー計算書（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで） （単位：千円）

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	836,182
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 169,638
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 421,694
現金及び現金同等物に係る換算差額	—
現金及び現金同等物の増減額 （△は減少）	244,849
現金及び現金同等物の期首残高	705,444
現金及び現金同等物の期末残高	950,294

●連結株主資本等変動計算書 (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主 持 分	純資産 合 計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	800,000	300,000	278,038	△ 11,714	1,366,323	△ 4,679	△ 4,679	18,662	1,380,306
当期変動額									
当期純利益			286,385		286,385				286,385
自己株式の取得				△ 55	△ 55				△ 55
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)						4,123	4,123	12,368	16,491
当期変動額合計	—	—	286,385	△ 55	286,330	4,123	4,123	12,368	302,822
当期末残高	800,000	300,000	564,424	△ 11,769	1,652,654	△ 556	△ 556	31,031	1,683,128

■財務諸表 (要旨)

●貸借対照表 (平成22年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額
資 産 の 部	
流動資産	6,103,671
固定資産	2,883,205
有形固定資産	2,467,719
無形固定資産	35,529
投資その他の資産	379,956
資 産 合 計	8,986,876
負 債 の 部	
流動負債	5,918,099
固定負債	1,475,865
負 債 合 計	7,393,964
純 資 産 の 部	
株 主 資 本	1,582,330
評価・換算差額等	10,581
純 資 産 合 計	1,592,911
負 債 純 資 産 合 計	8,986,876

●損益計算書 (平成21年4月1日から
平成22年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	12,470,910
売上原価	9,287,920
売上総利益	3,182,990
販売費及び一般管理費	2,571,366
営業利益	611,624
営業外収益	64,630
営業外費用	99,810
経常利益	576,443
特別利益	85
特別損失	311,175
税引前当期純利益	265,354
法人税等合計	11,480
当期純利益	253,873



■会社情報

●会社概要 (平成22年3月31日)

商号	株式会社ヤマウ
本社	福岡市早良区東入部五丁目15番7号
創業	昭和28年10月
設立	昭和33年2月
資本金	8億円
代表者	代表取締役 権藤 勇夫
従業員	259名

●会社役員 (平成22年6月29日)

代表取締役社長	権藤 勇夫
専務取締役	中村 健一郎
常務取締役	伊佐 寿起
取締役	尾野 友信
常勤監査役	平野 貞義
監査役	長野 紘一
監査役	加納 硬

●事業所 (平成22年6月29日)

営業所	福岡中央、福岡東、久留米、北九州、佐賀、唐津、大分、大分北、宮崎、延岡、高鍋、都城、日南、鹿児島中央、鹿児島北、鹿屋、霧島
工場	福岡、北九州、佐賀、大分、川南、高崎、鹿児島

●主な子会社 (平成22年6月29日)

九コン販売(株)	コンクリート製品仕入販売事業
メック(株)	コンクリート構造物の点検・調査業務、補修・補強設計業務、補修工事業務、補修・補強材料販売業務
光洋システム機器(株)	情報機器の開発・販売及び保守
大分フジ(株)	コンクリート製品製造・販売
(有)ヤマウ・アサヒ	鉄筋加工事業
(株)ヤマウトラスト	製造業務請負事業
クリエイティブ・モールド(株)	コンクリート製品用型枠の製造・販売並びに改造・修理



▲高崎工場



▲鹿児島工場

■株式情報

●株式の状況 (平成22年3月31日)

会社が発行する株式の総数	22,024,000株
発行済株式の総数	7,506,000株
株主の総数	568名

※第1回優先株式を含みます。

●普通株式所有者別状況 (平成22年3月31日)

金融機関	11名1,448千株	26.3%
その他の法人	53名1,078千株	19.6%
個人・その他	503名2,980千株	54.1%

■株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
公告掲載方法	日本経済新聞

〈ご注意〉

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ヤマウ|

検索



株式会社



福岡市早良区東入部五丁目15番7号

<http://www.yamau.co.jp/>